

暴言暴力に対する介護・看護職員の現状について ～ 施設・病院の実態調査から ～

北海道労災特別介護施設

○上田愛 金澤宏実 阿部弘美 阿部幸子

I. 目的

暴言・暴力を受けた施設・病院職員の現状（身体的・精神的苦痛と対応行動、教育支援状況）を明らかにする。

II. 方法

A施設、B・C病院に勤務する看護師・介護福祉士などを対象に、独自に作成した質問紙によるアンケート調査を実施。データを χ^2 検定により分析する。

倫理的配慮：倫理委員会の承認を得る。個人に不利益を生じさせない。データは研究のみに使用、責任を持って廃棄。

III. 結果

質問紙の配布数 145 有効回答数 132(回答率 98%)

職種：看護師 51%、介護福祉士 16%、その他 33%

年齢：50代 33%、40代 28%

性別：女性 88%、男性 12%

勤務中に暴言を受けたことがあるとの回答は 78%で、暴力を受けたことがあるとの回答は 42%である。施設職員と病院職員の回答に有意差は認めない。暴言・暴力を受けた時には「同僚に話す」「上司に話す」と行動をしている。心理状態では、「腹が立った」「悲しくなった」との回答が多い。施設の職員は病院職員と比較し、暴言を受けた時に「落ち込んだ」との回答に有意差を認めた。(p<0.05) 暴言の発生原因は、暴言実施者の「性格」(p<0.05)と「権利意識」(p<0.005)の回答に有意差を認めた。また病院職員は「認知症」(p<0.05)の回答に有意差を認めた。職員側の原因として、施設職員は「自身の技術の問題」(p<0.05)を挙げ、病院職員は「時間」(p<0.05)と回答している。暴言対策には「施設の方針の明確化」を求める回答に有意差を認めた (p<0.005)

IV. 結論

1. 施設・病院職員は勤務中に 78%が「暴言」を受け 42%が「暴力」を受けたことがある。
2. 暴言・暴力の発生原因を施設職員は「自身の技術に問題がある」と考え、病院職員は「時間が原因」と考えている。
3. 暴言を受けた施設・病院職員はその原因を実施者の「性格」「権利意識」「認知症」と考えている。